

令和5年度 学校自己評価（年度末）

本年度の重点目標	<p>1 社会的自立に向けて、自己肯定感を高め、主体的に取り組む生徒を育てる。</p> <p>2 従来の指導方針を継承しつつ、社会のニーズも視野に入れたキャリア教育を進める。</p> <p>3 心身ともに安全で健康的な環境をつくる。</p> <p>4 エ夫とコミュニケーションにより、業務量の適正化を図る。</p>			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
主体性の伸長(教務部)	自立活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ノートを修正する。 ・各担任によるチェックシートの作成と実施を行う。 ・教材の購入や提示を行う。 ・振り返り時間を見直す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり実施した。各担任でチェックシートを作成し、実施したことで、学校としての自立活動への取組の意識が高まったように感じる。今後、職員にアンケートを取り、見直しを行う。
主体性の伸長(教育支援部)	自己肯定感を高め、主体的な行動につなげる取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標を校内研究のテーマとして設定し、全職員が、重点目標の達成を目指して、担当する授業や諸活動で取り組めるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・約8割の生徒が、4月に比べて自分に自信をもてるようになってきたが、自信をもって行動(≡主体的な行動)できる生徒は6割弱と、自分に対する自信が行動に十分に反映されていない。
主体性の伸長(進路指導部)	主体的に進路活動を行える生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自己認識を深めるために、講話を行い、職業生活の授業とも連携していく。 ・面談等で、自己実現に向けての課題を確認する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活の授業では、各学年の進路活動での課題を明確にして授業で取組むことができた。 ・実習前に面談を行い、自己実現に向けて話をするのができた。今後は自分ノートの活用を積極的に行っていきたい。
主体性の伸長(寮務部)	寄宿舎での生活を主体的に改善しようとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「寄宿舎に入ってよかった」と思えるような行事の在り方を舎生会中心に考え、実践する機会を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事後の感想はおおむね好評であった。地域との交流も実施することができた。今後も舎生同士で話し合い、準備、計画したり、よりよい寄宿舎生活を送るためのルールを考えたりできるようにサポートしていきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実(教務部)	個別の指導計画の適切な目標設定と評価の実施(3観点評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部として、評価の振り返りをする。 ・各教科会で、目標や評価を振り返るように働き掛けをする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な評価ができつつある。まだ、今後検討が必要な教科もあるため、教科主任と一緒に考えていきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実(進路指導部)	進路実現のための適切な進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の指導・支援に活用できるような進路の情報を整理して発信する。 ・進路活動のねらいや流れを共通理解して活動できるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用の状況を現職研修や学年会等で発信することができた。今後は進路掲示板等を活用して最新の情報を生徒、職員へ伝えていきたい。 ・進路活動のねらいについて、進路説明会や保護者へ話をした内容を職員にも共有することができた。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実(部会・運営委員会)	今後の学校体制や進路先の動向を見据えた教育課程(職業種目)の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点をもって検討を進める。 ・県内外の特別支援学校の情報を収集する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の情報を収集する中で、本校の教育課程の強みを確認できた。生徒の実態、施設設備の問題等から職業種目における課題については、認識された。
人権意識の涵養、安全教育の充実(総務部)	改修工事に伴う物品移動の安全円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・改修場所、時期を把握し、安全・確実に物品移動ができるように計画し、実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・管理棟の物品移動は計画どおり安全に行うことができた。教室棟の移動は、女子更衣室の対応に遅れが出たが、それ以外はほぼ計画どおり実施できた。

人権意識の涵養、安全教育の充実 (生徒指導部)	社会ニーズを踏まえた生徒指導の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の変更による学校生活の状況を把握し、関係職員と連携して対応する。 ・携帯電話、スマートフォンの扱い方を検討する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校則変更による多少の混乱は見られたものの、服装については気候や生徒自身の体調等から生徒自身で判断して、考えて選択できるようになったのはよかった。一方、細部における認識の違いは少しあるので、今後も検討は必要である。 ・スマートフォン始め、SNSの扱いについては成果が出せなかった。段階的に現実的な扱い方を試行し、検証を行って実施できるとよかった。年間を通してトラブルが多く、状況を把握できていない家庭もあった。実態を踏まえ、今後も検討したい。
人権意識の涵養、安全教育の充実 (保健体育部)	心身ともに健康的な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康観察から、心や身体の状態を把握し、いじめや不登校などに学級や学年の職員と連携して対応する。 ・保健室の利用状況、事故報告書や「ヒヤリハット事例」を分析、活用し、けがや事故の予防につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車を呼ぶような大きな事故や、けがもなく健康に学校生活を送ることができた。 ・不登校の生徒に対しては、学級や学年の職員、スクールカウンセラーと連携を図り、対応し、改善することができた。 ・「ヒヤリハット事例」を生徒・職員に記入してもらうことで、けがや事故になりそうな事柄を把握することができ、けがや事故の予見につなげることができた。
教職員の働き方改革の推進 (教育支援部)	授業実践データを含めたデジタル教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・写真・教材フォルダなどを整理し、利用しやすくする。 ・よい教材の紹介と利用を呼び掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・写真・教材フォルダ内に、研修や情報など、分野ごとにフォルダを作成し、コンテンツを充実させ、部会やスクールエンジンで呼び掛けた結果、利用者数が増えた。
教職員の働き方改革の推進(寮務部)	検収業務が増えても職員の負担感を減らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・検収業務で会議に参加できない職員が出ないように寮務会を検収時間後に行えるように調整する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署の協力を得て寮務会の時間を変更したため、全員がそろって会議を開始し、時間内に終了することができた。
教職員の働き方改革の推進 (部会・運営委員会)	勤務時間の適正化、業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議等の内容、実施方法の見直し、改善を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化等の取組が進み、昨年度に比べて、勤務時間外従事時間が月当たり 45 時間以上の職員の割合が減少した。また、月ごとの勤務時間外従事時間の平均も昨年度より減少した。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・主体性の伸長 ・教育課程の見直し、キャリア教育の充実 ・人権意識の涵養、安全教育の充実 ・教職員の働き方改革の推進 		

※評価基準

A：計画どおりにできた。

B：ほぼ計画どおりにできた。

C：あまり計画どおりにできなかった。

D：計画どおりにできなかった。